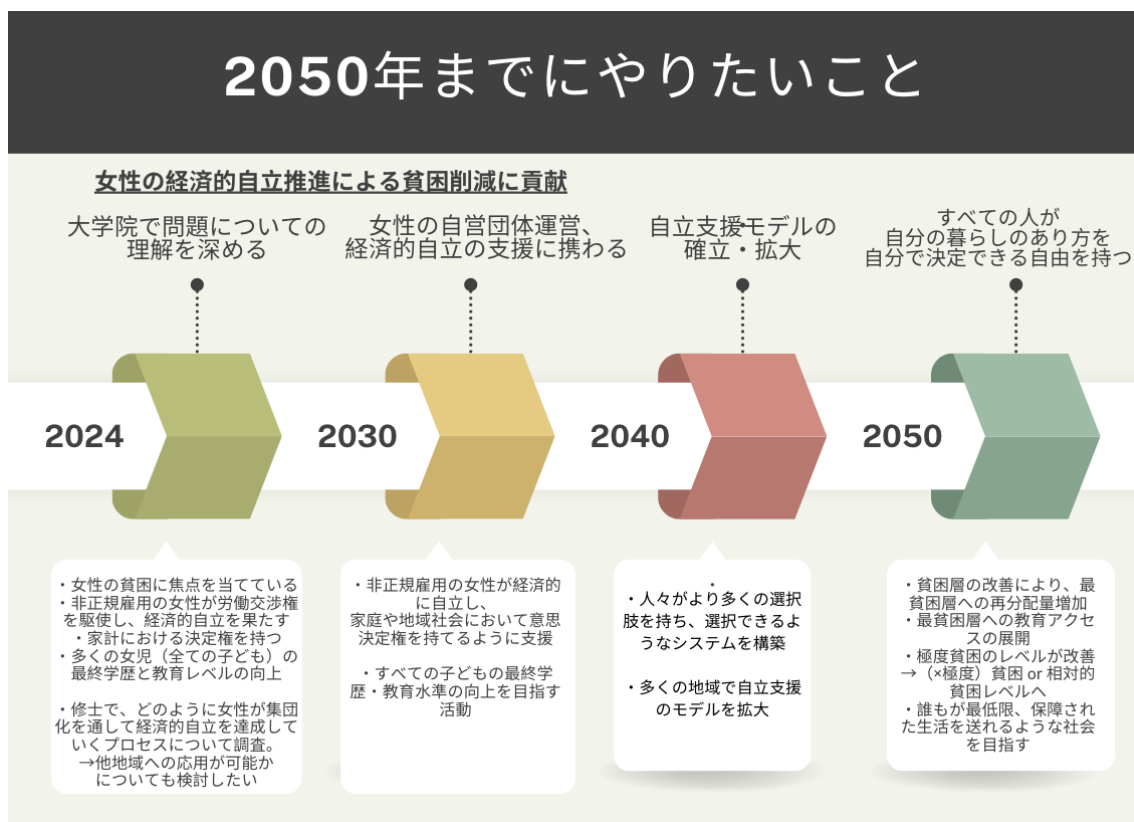


私が考える 2050 年までにやってみたいこと、今から 25 年をかけてどのような世界であることを望み、どのような道を進んでいきたいかを紹介します。

私は 2050 年までに、私はアマルティア・センのケイパビリティ・アプローチに基づいた、「すべての人が自分の暮らしのあり方を自分で決定できる自由が確保されている世界」に少しでも近づくことを目指します。大学で貧困や不平等問題を学び、特に多くの貧困層が直面する「ケイパビリティの欠如」が、人々の生活に大きな影響を与えていることを痛感しました。また、中村先生の講演から、水不足や環境問題が人々の選択肢を狭め、生活の質を大きく低下させていると感じ、この問題解決の重要性を改めて認識しました。より具体的な道筋を以下の図に示します。



2030 年までの目標：労働環境・教育改善を通じたケイパビリティ拡大のための基盤づくり

2030 年までに、大学院で学んだことを活かして、経済的自立を促進するための支援活動を通じて、特に女性や貧困層がケイパビリティを拡大できるような支援に取り組みたいです。具体的には、非正規雇用の女性に対する経済的自立支援プログラムの実施や、すべての子どもが質の高い教育を受けられる環境づくりに取り組みます。これらの活動を通して、人々が自分の人生を主体的に選択できる基盤を築いていきたいと考えます。

2040 年までの目標：自立支援のモデルを確立、拡大

2040 年までに、2030 年までの活動で得られた知見を基に、より多くの地域で自立支援のモデルを拡大したいと考えます。持続可能な開発目標（SDGs）を達成するため、個人が主体的に参加できるような仕組みを構築したいと考えています。

2050 年までの目標：ケイパビリティが保障された社会の実現

2050 年には、貧困層の貧困レベルが改善することを仮定し、最貧層への再分配を進めるとりくみに注力したいです。貧困層の貧困レベルの改善が最貧困層へのパイを増大させ、教育や医療へのアクセスを拡充することで、誰もが最低限、保障された生活を送れるような社会の実現を進めていきたいです。最終的には、人々が外部の支援に頼ることなく、自らの力で生活を向上させられるような、生活が保障された社会を目指します。

しかし、中村先生の水に関する講演を聴き、私が 2050 年までにやってみたいこと、特に教育や労働環境の改善などの取り組みは、今、極度の貧困状態にある、水や食糧など、生きるために必要な資源を手に入れられない状態にある人を前にしたら、必ずしも、喫緊に取り組む必要がないのではないかという疑問も生じました。最後に、中村先生の講演を聴き、私を感じた、喫緊の課題と長期的な課題に対する取り組みへの所感を述べたいと思います。

講演でお話があったように、アフガニスタンの水不足は、人々の生活に深刻な影響を与えていることが理解できます。「金が無くても生きていけるが、雪が無くては生きていけない」という現地の人の言葉が示す通り、水は単に生命維持のための資源というだけでなく、現地の人々にとって生活の根幹を支える命の源であることが伺えます。2000 年の大干ばつでは、アフガニスタン全土が甚大な被害を受け、多くの村が水不足により放棄され、人々は生き延びるために近隣諸国へ避難せざるを得ず、農業が成り立たない状況下で栄養失調や病気が蔓延するなど、水資源の不足が生活全般に及ぼす影響は計り知れません。

しかし、人々が健全で充実した生活を築くためには、水だけでなく、教育と労働の機会も欠かせない要素だと思います。（アフガニスタンの場合は、主な労働が農業であることが動画中において伺え、水資源に左右される労働であったと思いますが、必ずしもそのような場合に限定しないこととして述べさせていただきます。）今回お話にあった水資源と、私が興味関心のある教育、労働の三者は、互いに支え合うことで、人々の生活の質を向上させ、持続可能な社会を築くための基盤を形成すると思います。まず、水が確保されていれば、感染症のリスクが低減し、人々は健康な生活を送りやすくなります。健康が保たれることで、子どもたちは安心して学校に通い、成人は働く機会を得ることができます。また、教育は水資源の持続的な管理に欠かせません。適切な教育を受けた人々は、環境問題や水資源管理の重要性を理解し、地域社会での水資源保全に積極的に関わることができます。講演においても、中村先生が述べたように、地域の人々が自ら水利用インフラを管理し、維持できる形での整備が重要とされています。これは、地域住民が主体的に水資源を管理し、生活基盤を守

るための知識と工夫を必要とする取り組みです。さらに、労働も水資源の管理と密接に関わっています。井戸や用水路の整備、農業の灌漑システムの改善には、専門的な知識と労働力が必要です。これにより、農業収穫量の安定化や収入増加が期待でき、家庭の経済的自立と成長につながります。労働によって得られる収入があれば、家庭は生活を維持し、子どもたちの教育費や医療費を確保できるため、健康で持続可能な生活を築くことができます。

アマルティア・センの「ケイパビリティ・アプローチ」に基づくと、人々が自分の望む生活を選択するためには、本人が資源へアクセスできることと、資源を利用できる能力が必要とされています。アフガニスタンの現状では、水資源の不足という資源アクセスへの限界と、資源を利用できる能力を育成する環境の不足が人々の生活の自由と選択肢を制限していると感じました。このような状況で、水資源の持続可能な管理などの生活に不可欠な資源の確保と同時に、教育や労働の機会、環境を整備することは、貧困から脱却し、持続的に自由で豊かな生活を実現するための第一歩になると感じました。